

最近の中国農村について

北川内科クリニック 北川 鉄人

この数年内に学会や私の趣味（水墨画）で北京、上海とその近辺を訪れる機会が数回あり、中国より一人の青年が私のもとを訪れた。当国の主義や経済を含めた農村の事情をきいたのでその一部を紹介する。

中国の農村はその全土の人口と土地の80%以上を占めると言われる。農民の生活は改革開放以来、次第に豊かになって来ており、労働意欲の少なかった集団労働の時代はすぎ、農民達は労働の積極性が極めて高くなって来ている。基本的には農地は国のものであり、各農家に分配されている。農家を新築するとき、その人数配分により、新築のための土地は無償で政府より支給される。農民は生産の請負制によって国から耕地を請負いするようになってきている。

中国北方地方では小麦、とうもろこし、大豆、南方では稲、果物を主として耕作している。毎年の収穫物は農家の一年間、もしくは三年間分の食糧を残して、戦前の日本のように残り全部を政府に納める。家庭の生活用品たとえば食塩、石ケン、衣料、灯油などは購入するが、野菜、枝豆、採種、果物などは自家で栽培し、酢、食油、みそ、小麦粉などは自家で加工する。耕作方法はほとんど手耕法、ろば、牛、馬を使っておこなわれている。専業農家もあるが、最近日本のような兼業農家が多くなり、農村の余剰労働力として、若者達が都会に殺到し、建築労働者、運搬、街の清掃、家事の手伝いなどの仕事に出稼ぎに行く。中国北方地方は乾燥気候のため、果物、

新鮮な野菜など種類も少ないので南方地方より運送される。逆に南方地方にない木材などは北方より南方へ販売される。また揚子江近辺の農家などでは、加工、軽工業などの工場をつくり、その製品はアメリカ、西欧まで輸出されている。農村の人は都会の人と同様立派な洋服を着、コーヒー、ビール等を飲んで観光に行くなどの文化的生活をするようになった。12億の人口を擁するといわれる中国はいまだ弱い基礎的農村経済事情のため、とにかく飢餓状態から開放され、食糧が完全に自給自足できるようになって来ている。食糧の8割を輸入に頼っている日本の現況と比較してみると、とにかく中国へ行ってみて感心させられたことのひとつである。

この広大な国土のため南方の気候、環境、土地の質はそれぞれ異なり、東南地域も幅広く地形の変化が著しい。東南沿海地区はとくに生活事情がよく発達し、北と西北は砂漠、高原が多いので気候も悪く、東部よりかなり遅れている。また各種経済の制約により農村の教育環境はまだ決して豊かではない。たとえば一部の子供は教材を買えないで学校に通うことができなく、とくに山村地帯、辺境地区の教育設備は悪く、机も足りなく、教室もない。教師も不足しているなどの問題に悩んでいる。通信情報、交通、文化、娯楽、住居などもおくれ、電気が通じていない農村もあり、テレビ、冷蔵庫を持つ農家は一部にかぎられて少数である。

先程述べたように中国の農村人口がその大



中国桂林興坪県付近（北川撮影）

半を占めているにもかかわらず、医療保険制度は農村には普及されていない。筆者自身この言葉が決して適切かどうか分からない。かかった医療費は全額農民が現金で負担しなければならない。医療機関は全て国営で病院は都市のみにあり、農村には小さな診療所しかない。重病、急病の場合は何十キロ、何百キロ離れた県都、都市に行かなければならない。産婦、老人の場合大変困り、車も持っていないし電話も通じない地方もあり、中国農

民にとって医療を受けることの困難性は日本人には想像の予知もない。とくに医療費は、生活するには農家は現金がなくても暮らせるが、病気が増悪すると全額現金で支払わねばならないため病気をずっと我慢していることが多く、このような状態の農民が少なくないと言われている。これはほんの一例であるが中国の城郷差別（都市生活が医療保険、教育の方面でとくに優位であること）が明らかであると思われる。